

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 1 column: 基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方がどんな思いで行動しているのかを考慮して表情や行動で対応し情報共有に努めている。不穏な方を大変な人ではなく「なんでだろう」と考えていく習慣を身につける努力をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・月に1回レストランの日と決め、利用者の食べたいもの、日頃食べることが出来ないものを積極的に提供し、利用者の楽しみとなっている。
・2回に分けて利用者と職員で一泊旅行に出かけている。今年には日出のホテルに宿泊し、普段見られない笑顔を見ることが出来た。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Main evaluation table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果, 項目, 取り組みの成果. Rows 56-62 and 63-68.

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や廊下に掲示している。	理念はグループホーム独自のものを、朝礼時に唱和し、職員で共有している。常に利用者本位、利用者優先を考え、日頃のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響で現在交流を控えている。	自治委員から運営推進会議を通じて情報をもたらしている。小学校の入学式のお祝いに例年なら利用者で行くが、今回は職員が代表で行き交流が途切れないよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内でSOSネットワークへ加入している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みを報告している。	今年度は9月から参集での会議となった。参加者から入居の条件などの質問があり、パンフレットの作成を考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政から災害の安否について連絡があり連携をとれるように取り組んでいる。	災害時など市から安否の確認の電話が来たり、断水時も物品を届けてくれるなど、常に気にかけてもらえてる。困ったときも相談しやすい関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月委員会を開催し事例をあげ対応について話し合いを行い共有している。	身体拘束の具体的な言葉や行為の勉強会を行っている。不適切な言葉が出てその都度注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアが行われないように言葉使いから対応について厳しく取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	各ご家族へ書面と口頭で説明をして同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族へ要望やご意見の聞き取りを行っている。	家族には状態報告時やケアプラン作成時に必ず意見を聞いている。また、受診時、家族同伴の時などに聞き取りを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に話を聞く機会を設け一緒に考える様に努めている。	職員とは個別に話を聞くことが多い。入浴時間の変更や、夜勤帯時間の変更、夜勤手当のアップなど職員の意見で改善されたことが多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	報連相・情報共有を行いと統一したケアに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で委員会を設け質の向上に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	昔の情報収集を行い本人の事を知る努力と困っている事や不安な事など聞き取り信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望等を聞き取り信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集を行いどのようなサービスが適しているかアセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族からご本人の生活歴をお聞きし、その情報を職員間で共有し人生の大先輩・尊敬の念を持って関わり、自立した日常生活が送れるよう支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族に連絡や面会時等に施設での様子を細かくお伝えし安心して頂けるような関係作りを行なっている。入居者の方とご家族がいつでも気軽に顔を見てお話しが出来るようにLINE電話を活用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの感染状況を勘案し人の多い場所の外出を控えているが、県内、市内の感染状況を見ながら自宅訪問や自宅周辺、馴染みの場所周辺のドライブを行なっている。	以前住んでいた近所にある神社や、昔営業していたお店の周辺をドライブしたり、また市内にはよく出かけている。いつも来てくれる美容師さんともなじみになり話がはずんでいる。知人に年賀状も出して、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の間で良好な関係づくりが築けている同士などを把握しテーブル配置や座られる場所などにも配慮した支援を行っている。又、職員が間に入りコミュニケーションが取りやすい環境を作りを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退院されても関係機関との情報交換を行い様子や状況把握を行なっている。又、同法人施設に移られた入居者の方は常に情報共有し、新しい環境に慣れて頂けるように協力を行なっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを多くとり、ご本人の意向を聞き取り意向の把握に努めている。聞きとりの困難な方には、ご家族に聞き取りを行ない意向の把握に努め、本人本位の検討を行なっている。	日頃の会話のなかや入浴時に、したいことなどを聞いている。編み物がしたいとか、学習がしたいなどを実行することで、帰宅願望などが少なくなった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴や生活環境等を出来る限り詳しく情報を得て、職員で共有しその人らしい暮らしが出来るように把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時には、業務前に日誌やケース記録などで現状把握に努めている。また、どんな事でも職員共有ができるよう、伝言板やスタッフ会議などで伝達を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の生活歴を基にご本人らしく生活ができるよう、ご本人を含めた必要関係者が話し合い、趣味や特技を活かした現状に即した介護計画を作成している。	担当職員には必ずカンファレンスに参加してもらい、家族にも聞き取りを行っている。編み物や料理がしたいとの要望などをケアプランに組み込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録やカンファレンス時に担当職員などから日々のケアの実践状況などを聞き取り把握を行ない、介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じ、必要な支援を柔軟に対応し行なっている。		

事業者名:グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等を通じ各関係者から地域資源の聞き取り把握を行なっているが、現在コロナの感染状況を見ながらなので開催できない事が多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の付き添いが可能な場合でも職員も付き添いを行ない状態を細かく伝えるように行なっている。受診後は御家族・職員間で情報共有を図っている。協力医療機関が往診を行なっている。	専門医は元々のかかりつけ医で、内科は訪問診療を受けている。かかりつけ医を受診するときは家族が付き添うが、変化があれば職員も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に看護職員がおり、急変時の支援を受け入れられるように体制をとっている。日常生活での小さな気づきも報告ができ、連携がとれて情報共有ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はコロナの感染状況により、面会ができないが小まめに入院先の医療機関に連絡を取り、情報の交換や情報共有、相談を行ない調整を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期について事業所の方針を説明している。状態変化のときは医師の指示を踏まえて事業所で出来る事を十分説明している。	入居時に事業所の方針を説明し、状態の変化に応じて家族や主治医と話し合い、入院であったり、特養への住み替えの支援も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDの取り扱い方法など研修を行っている。又、スタッフ会議の勉強会で必要時、研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の影響で年2回消防署の指導と地元消防団と協同で避難訓練は行っていない。法人内では7月に実施する事が出来た。コロナ以前は運営推進会議を通じ災害時の協力を依頼していたが、現在は書面での協力依頼を行なっている。災害時の備蓄を行っている。	月に1回、グループホーム独自で、マニュアルをもとに火災訓練を行っている。年2回法人の訓練も行い、備蓄も三日分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の漏洩がないように、外部の目がふれないように保管している。プライバシーに関するものは他者に聞こえないように耳元で声かけを行ない、トイレ・更衣など必ず扉を開けてプライバシーの保護に努めている。	声掛けを工夫し、一人ひとりの尊厳を傷つけないような対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの声掛けなどご本人の希望を聞き希望がある際はご希望のレクリエーションを計画して実施しています。またご自分でレクリエーションの参加の有無を選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人ひとりの体調や状況を尊重し希望に沿った食事提供時間を行なっている。活動内容もその方の希望を汲み取りながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の衣類はご自分で選んでいただき、また選ぶことが出来ない方は続けて同じ服にならないように配慮している。介護美容を取り組みながらお化粧を好まれる方には行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に利用者に季節料理を聞き取りしながらメニューの中に取り入れレストランを開催している。職員と一緒に準備や片付けを行い積極的にされる。	月に1度レストランの日と決め、日頃食べられないもの、刺身やサンマ、いなり寿司、炊き込みご飯など、利用者の希望をとり入れ生き生きと食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の食事量と水分量の記録を確認して少ない方には声かけを行い味の変化や時間をずらしての提供など工夫をしながら少しでも多く摂取出来る様に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時には舌ブラシで舌を磨いていただき清潔保持に努めている。お一人ひとりのできる範囲でブラッシングを促して丁寧に磨ける様に支援している。必要に応じて訪問歯科を依頼している。		

事業者名:グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人ひとりの排泄パターンを記録を通じて職員間で共有を行ない時間に応じて早めの声かけを行ないトイレ誘導を行なっている。	排泄は自立している人が多く、トイレでの排泄が可能となっている。夜間もパターンを把握し、声掛けをしてトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳、ヨーグルト、体操後にはバナナジュースを作り提供し腸内環境を整える様に努めている。腹部マッサージや運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤や薔薇を浮かべたり入浴を楽しめるよう工夫している。希望者にはノンアルコールビールの提供を促し温泉気分を感じていただいている。体調不良などにより入浴出来ない方は別日を選び支援をしている。	基本週2回の入浴としているが、希望があれば応じている。拒否する人には声掛けや支援の仕方を変えることで入浴が出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方よりアロマヒーリングの音楽を流し入眠を促している。暗くなると不安になったり寂しくなったりすると思うので少し声のトーンを下げ優しく声掛けを行う様にしている。寝つきの悪い時は傾聴し安心して頂ける様に努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的を把握し、職員同士声を掛け合い誤薬がない様に気をつける。服薬前には必ず日にちと名前を確認を再度行ない、飲み込み確認が出来るまでその場を離れず飲み込みの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状態に合わせて趣味や得意な事を活かして生活して頂いている。レクリエーションを取り入れ有意義な生活が送れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に応じてドライブや散歩、日光浴をし戸外に出かけている。	前庭を散歩したり、近くの神社にお参りをするなど、日常的に外気に触れている。職員の提案で天気の良い日はドライブに出かけたり、海を見に行ったりしている。日帰りで姫島にも行き、喜ばれた。	



事業者名:グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は預かっておらず必要に応じて家族に了承を得たうえで購入する。コロナ化という事もあり職員が必要時に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の希望に応じてLINE電話で会話している。個々の能力にに応じて年賀状を自筆で書き送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は職員皆で清潔に保ちその季節に応じた物品を飾り、利用者に季節を感じてもらい気持ち良く過ごして頂けるように心がけている。	リビングの数か所にソファを置き、仲の良い人同士でくつろげるよう工夫している。廊下には旅行の写真や行事の写真が飾られ、季節感のある作品が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う他利用者と同じ机に着き会話やレクリエーションなどを行なう事が出来る。それに加えソファがホールを中心から少し離れた位置に設置しており、好きな場所で過ごすことができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室担当が施設内やご家族との写真、ご本人が作成されたもの等を飾り、自分の空間として過ごしやすいよう努めている。タンスや机など家から使い慣れた物を持って来て頂き、居心地よくなるよう心掛けている。	居室にはテレビや家族の写真、たんすやハンガーが持ち込まれ、心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な箇所は職員同士で意見を出し、安全に過ごせるよう環境整備に努めている。他にも張り紙を掲示する事で、自身で理解をし生活できるような環境作りに努めている。		